

経済水道委員会

説明資料

名古屋城天守閣の整備に関する調査について

平成27年7月1日
市民経済局

目 次

	頁
1 整備に関する文化庁の見解	1
2 史跡等における再建区分	1
3 経済波及効果	2
4 現天守閣の長寿命化に向けた想定しうる対策	2
5 今後の進め方	2

1 整備に関する文化庁の見解

- ・天守の再建については、整備主体である地元の自治体がどのような内容の整備を行うか考えることが第一
- ・その上で、天守を復元する場合は、原則として材料等は同時代のものを踏襲する必要があるが、それ以外の可能性を排除するものではない
- ・名古屋城天守閣については、往事の資料が十分そろっていることを踏まえると、いわゆる復元検討委員会において木造によるできうる限り史実に忠実な復元をすべきとの意見が出される可能性が極めて高いと考えられる

注 「復元検討委員会」とは、歴史的建造物の復元に関する具体的案件等について検討を行うため、文化庁に設置された専門委員会である

2 史跡等における再建区分

区 分	歴史的建造物の復元	歴史的建造物の復元的整備
定 義	<ul style="list-style-type: none"> ・今は失われて原位置に存在しないが、史跡等の保存活用計画又は整備基本計画において当該史跡等の本質的価値を構成する要素として特定された歴史時代の建築物その他の工作物の遺跡（主として遺構。以下「遺跡」という。）に基づき、当時の規模（桁行・梁行等）・構造（基礎・屋根等）・形式（壁・窓等）等により、遺跡の直上に当該建築物その他の工作物を再現する行為 	<ul style="list-style-type: none"> ・外観を復元しつつ、屋内の利活用の観点から内部の意匠・構造を変更して、建築物その他の工作物を遺跡の直上に再現する行為
基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、復元に用いる材料・工法は同時代のものを踏襲し、かつ当該史跡等の所在する地方の特性等を反映していること ・構造及び設置後の管理の観点から、防災上の安全性を確保すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該史跡等の本質的価値の継承及び理解促進の観点から検討を行うこと

注 「史跡等整備のてびき（文化庁文化財部記念物課監修）」に係る「史跡等における歴史的建造物の復元に関する基準」による

3 経済波及効果

木造復元に係る概算経費約270億円から約400億円の建設工事のみの経済波及効果を試算すると、約530億円から約780億円が見込まれる

注 試算結果は、総務省が平成23年度産業連関表のデータから作成した経済波及効果の簡易計算ツールによるもの

4 現天守閣の長寿命化に向けた想定しうる対策

- ・耐震補強工事（柱鋼板巻き、梁炭素繊維補強、耐震壁増設など）
- ・内外装等改修工事（屋根、外壁、内装の改修など）
- ・電気機械設備等改修工事（エレベーター更新、空調設備更新など）
- ・コンクリート中性化対策工事（アルカリ回復など）

注 コンクリートは、中性化対策工事によって一時的に改善するが、再び中性化が進むこととなる

5 今後の進め方

- ・名古屋城天守閣は、焼失前の資料が豊富に残されていることから、史実に忠実な復元が可能であり、ものづくりの伝統の技と名古屋の歴史・文化を後世に伝えることができる。平成26年度調査の結果も踏まえつつ、市民の精神的基柱となり、将来の子どもたちの宝となるような木造による復元を見据え、財源の確保や技術的課題などを一つ一つ整理していく
- ・今後、フォーラムなどの機会を捉え、整備の選択肢をお示ししながら、市民の皆様の見解を伺うとともに、調査結果などを丁寧に説明していく